

第120回長崎大学経営協議会議事要録

1 日 時 令和3年4月19日（月）13時30分～15時45分

2 審議事項

(1) プラネタリーヘルス学環（仮称）の設置申請について

理事（総務担当）、熱帯医学・グローバルヘルス研究科長及び平山熱帯医学・グローバルヘルス研究科教授から、資料2に基づき、既存の研究科の枠を越え、各研究科の入学定員、教員、施設設備等の一部を用いて、横断的な分野に係る教育課程の実施を可能とする「研究科等連係課程実施基本組織」として、令和4年10月に「プラネタリーヘルス学環（仮称）」を開設するため、4月下旬に設置申請を行うこと、また、設置申請後は、令和4年度概算要求において、熱帯医学・グローバルヘルス研究科グローバルヘルス専攻（博士後期課程）の入学定員の増員（3～5名）の申請を行うことについて説明があり、審議の結果、了承された。

なお、審議の過程において概ね以下のような意見交換があった。

（◎は学外委員、○は大学側の発言）

◎ Dr. PH の一般への認知度を高めていく必要がある。また、修了後に戻った先が企業なのか、国際機関なのかで3年間の学問の成果が問われていくのではないか。

○ 日本では、Dr. PH はほとんど認知されていない。日本の他大学で行っている Dr. PH の教育はドメスティックなものでグローバルな視点での大学の教育は本学が初めてである。これから認知度を高める取り組みを進めたい。

修了生の出口については、適性に合った形で多様な出口が自然と出てくると考えている。日本から世界の役に立つ人材を本当の意味で出していきたい。

◎ 大学以外の場所において実際に政策ニーズを学ぶ場をどのようにつくる予定なのか。

○ JICA や厚生労働省の国際関係の部署等と綿密に相談し、学生の希望に合わせて実務経験を詰める場に必ず送り出せるような仕組みを準備している。

(2) 令和4年度水産・環境科学総合研究科海洋フィールド生命科学専攻

（博士課程（5年一貫制））の学生募集停止について

理事（総務担当）及び水産・環境科学総合研究科長から、資料3に基づき、水産・環境科学総合研究科海洋フィールド生命科学専攻（博士課程（5年一貫制））の学生募集停止を令和4年度概算要求事項として申請することについて説明があり、審議の結果、了承された。

(3) 令和5年度学部入学定員の見直しについて

理事（総務担当）及び経済学部長から、資料4に基づき、令和5年度に経済学部（夜間主コース）の学生募集を停止すること及び当該入学定員を活用して4学部の入学定員を増員することについて説明があり、審議の結果、了承された。

なお、審議の過程において概ね以下のような意見交換があった。

（◎は学外委員、○は大学側の発言）

◎ 経済学部以外の学部におけるリカレント教育の実施状況はどうなっているのか。長崎大学が長崎におけるリカレント教育の拠点として機能するとよい。大学としてのリカレント

教育に関する方針はあるのか。

- 現時点で情報データ科学部，医学部保健学科，工学部はリカレント教育を積極的に行っている。大学としての方針については，現在，各部局に社会的なニーズを照会しており，それを受けて対応を検討する予定である。長崎県は社会人を働かせながらリカレント教育を受けさせる余裕のある企業が少ない。大学としてはリカレント教育にも力を入れていきたいと考えており，産業界の皆様に優秀な従業員の再教育の場として大学を使っていただきたい。
- ◎ リカレント教育はリモートを上手に使うって修士課程等の大学院をベースにするとよいのではないか。

(4) 令和2年度余裕金運用実績，令和3年度資金繰計画（案）及び余裕金運用計画（案）について

理事（財務・施設担当）から，資料5に基づき，令和2年度余裕金の運用実績について報告があった後，令和3年度の資金繰計画（案）及び余裕金運用計画（案）について説明があり，審議の結果，了承された。

なお，審議の過程において概ね以下のような意見交換があった。

（◎は学外委員，○は大学側の発言）

- ◎ 外貨運用は為替リスクが非常に高いが，国立大学が運用することが可能なのか。
- 長崎大学は外貨運用を認められていない。非常にリスクが少ないものについては，自家運用が可能である。
- ◎ 資料に「次期中期目標期間において上のクラスの認定基準を取得し，より収益性の高い外貨定期預金，外国債券での運用を目指す」とあるが，そのために何をすればよいのか。
- 区分を上げるとハイリスクの運用ができるようになるが，大学には自家運用に関する専門的な知識を持った者がいないので，証券会社等と契約して運用することも選択肢となる。なお，外部の有識者等を入れた資金運用管理委員会を作って判断する必要がある。

3 報告事項

(1) 国立大学法人ガバナンス・コードへの適合状況等の公開について

理事（総務担当）から，追加資料1-1から追加資料1-4に基づき，国立大学法人ガバナンス・コードについて，各国立大学法人は令和3年2月末日までにその適合状況等をそれぞれのウェブサイト上で公開したところであるが，4月8日付けで文部科学省から公開状況の確認結果が通知されたこと，その結果を踏まえたうえでの本年度における本学の対応方針等の報告があった。

(2) 業者による架空請求等事件について

理事（財務・施設担当）から，資料6に基づき，本学出入業者の社員による架空請求等の不正行為について，状況及び引き続き調査を進める旨の報告があった。

(3) 令和2年度の国家試験合格状況について

理事（教学担当）から，資料7に基づき，令和2年度の医学部，歯学部及び薬学部の国

家試験合格状況（医師，歯科医師，薬剤師，看護師，保健師，助産師，理学療法士，作業療法士）について報告があった。

(4) 令和3年度入学者選抜について

副学長（入試・地域教育連携担当）から，資料8に基づき，令和3年度入学者選抜の状況や入試広報等の取組みについて報告があった後，概ね以下のような意見交換があった。

（◎は学外委員，○は大学側の発言）

- ◎ 新型コロナウイルス感染症の影響で流動性がなくなり，県外からの受験者が減っているのではないかと。
- ◎ 学力の3要素を求めた入学者選抜を通して入学した学生が今後どのように育っていくのかを長い目で見て検証していくとよいのではないかと。
- 入試から出口までをどうつないでいくのが非常に重要だと考えているため，フォローしていきたい。

(5) 最近の大学の主な動きについて

資料9のとおり事前配布していた最近の大学の主な動きについて，概ね以下のような意見交換があった。

（◎は学外委員，○は大学側の発言）。

- ◎ 次世代オンライン遠隔医療システムの開発・提供において，長崎県，五島市，長崎県五島中央病院，日本マイクロソフト株式会社と連携協定を締結した件について，遠隔医療が本格的に始まる第一歩と捉えてよいのか，リウマチのことにのみをするものなのか。菅内閣が進めているデジタル化に乗る形でモデルケースを作っていただきたい。
- 今回の件は，バーチャルリアリティと現実に見えているものを組み合わせたミックスリアリティという新しい概念で遠隔診療を行うものである。これ以外にも大学病院と五島中央病院をローカル5Gでつないで遠隔医療を行っている。
- ◎ 長崎県と協力して，リウマチだけではなくほかの分野にも広げて行っていただきたい。
- ◎ 遠隔医療については，将来的に実用化されるようにと強い問題意識を持って行っている。現在は助成金，補助金を利用しており，非常に費用がかかるが，技術的に今後可能性を秘めているため，実用化できるよう進めていきたい。
- 離島・へき地に専門の医師が少ないため，遠隔医療等を利用してどこでも同じような医療を受けられる体制を作るのは非常に重要であると考えている。

（以上）